

栄えあり上峰

学ぶ心
磨く心
鍛える心

上峰中学校生徒指導部だより（文責 矢動丸）R7.5.9

あいさつの心

新学期が始まり、もう 1 か月が経ちました。1 年生は学校に慣れてきましたか。2, 3 年生は「先輩」として、規則正しい生活ができていますか。

さて、今年度の生活の目標に「挨拶」を掲げています。小学校からずっと頑張ってきた挨拶の活動を、上峰中でも継続し、さらに進化させてほしい課題であると考えています。

挨拶というと、上峰中では 1 年生の初めの時期と、受験を控えた 3 年生が一番上手で、みんな気持ちの良い挨拶をしてくれます。ところがだんだんと日が経つにつれ、挨拶ができなくなる生徒が出てくるという印象です。

挨拶に限らず、部活動についても、最初はできているのに、それがしばらくするとできなくなるのはなぜだろう…と考えてしまいます。

大人になって、会社に入れば、新入社員のときよりも、日が経つごとに成長し、仕事のやり方でもなんでも上手になっていくものです。挨拶も同じです。社会人になると、歳をとるごとに、挨拶が上手に気持ちよくなっていきます。それは、なぜでしょうか？

それは社会に出て、「挨拶が大事だということがわかるから」です。挨拶ひとつで、自分が、その相手を大切にしているという証（あかし）であるということが痛いほどわかるからです。

挨拶の「挨」は、心を開く、「拶」には、相手の心に迫る…という意味があります。また、「挨」には、軽くふれあう（誰とでも気軽に挨拶をする）。「拶」には、重くふれあう（この人との出会いは、この時だけかもしれないと思い、大切に、丁寧にしよう…）という意味もあります。

そんな想いを込めて、“自分から”挨拶ができる人は、「相手との関係を良くしようとしている人」であり、「人との出逢いを大切に考えている人」「相手をちゃんと認めている人」になります。

そんな心のこもった挨拶は、必ず相手に伝わり、相手も必ず「心を開いてくれ、自分を応援してくれる」ように

なります。

大人になると毎日の生活の中で、いろいろな人と出逢い、いろいろな人から支えられ、助けられるから、挨拶の大事な心を感じ取り、それで、歳をとるごとに挨拶が上手になっていくのです。「挨拶って大事だよなあ〜」と思っている人が、後になるほど挨拶が下手になることはあり得ません。

ということは、中学生の皆さんも「挨拶の仕方」（自分から、元気よく、立ち止まって、笑顔で、+α）を学ぶことも大切ですが、「挨拶の心」すなわち「挨拶が大事だと思ふ、その心こそ大事」なのです。やり方ばかり覚えていては、「先生が見ていないところではやらない」とかだんだん「恥ずかしい」「面倒くさい」となりがちです。

しかし、「挨拶の心」を本当に理解すれば、学年が上がる毎に、挨拶の質も高まっていくのです。

挨拶とは、「相手の存在を認め、相手に対して心を開くこと」人に対して、心を開けない人は、周りの人からも心を開いてもらえません。逆に、自分が心を開けば、周りの人も心を開いてくれ、勝手に迫ってくれます。（あなたの人生を応援してくれます）

それが、誰からも応援される人になる原理・原則です。だからこそ、上峰中の三本柱である「挨拶・掃除・時間」。そして、心のコップを立てるための、「返事・聴く姿勢」にはこだわりをもって、取り組んでいきたいと考えるのです。～相手を認めるから挨拶をするのではない。挨拶をすることによって相手を認めるのである～
～挨拶を大切にすることは、人を大切にすること～

暑くなってきました！熱中症には十分気を付けましょう。

※日焼け止め可（無色無香料）

※体育時に使用する帽子の活用

※水筒は多めに持ってこよう

※中学校には冷水器はありません。水道水は飲水可です。

求む！真のエリート！！

GWはしっかり休養できましたか？いよいよ来週は、体育大会の練習が始まります。応援リーダーに選出された人には、今後の文化発表会や合唱コンクールの行事など、集団で何かをする場面でリーダーシップを発揮してほしいと思います。その「覚悟」をもって取り組んでください。

私はある意味リーダーというより、「エリート」に育ってほしいと思っています。「エリート」というと、「エリート＝特権階級」という悪いイメージが、長年定着しているようです。それは、もしかしたら今まで「エリート」と呼ばれていた人たちが自分のことしか考えない多くの誤った行動が原因なのかもしれません。

「エリート」という本来の意味は、「自己責任をとっていこうという気持ちや精神が高い人」です。学校に置き換えると、自分のことだけ責任をとるのではなく仲間や学級や学年、学校など、自分の周りのことを自分の責任と感じて、頑張っていこうとする人と言えるでしょう。

もっと言うなら、「これは特別、自分がしなければならぬことじゃないけれども、誰かがしなければならぬなら。。。誰もしないのであれば。。。自分がやっていくと思える人」ではないでしょうか。

さらに言うなら、「エリートとは、断れば断ることのできる責務（仕事や責任）をあえて受諾する（自分がやります！ということ）人」のことでしょう。自分が得することよりも、周りのことを優先する姿勢が大切になります。エリートとそうでない人の「差」は、自分にとって不都合なことをどれだけ受け入れられる人か。。。その度合いによって決まるような気がします。

私は、4回目の体育大会になります。上峰中の体育大会は、すごいなーと感心しています。一生懸命団の仲間を応援し、演技もガラガラとした雰囲気はなく、一生懸命やりきったという晴れ晴れとした笑顔や涙がたくさん見られる大好きな行事です。今年は、その姿を保護者の方全員に直接お見せすることができるよう、皆さんも楽しみに思っていることでしょう。

この練習期間中、特に、3年生の「進化」が期待

できます。3年生はこれから、進路選択という3年間の集大成が問われる時期を迎えます。もし、「幼さ」「甘え」だけが残っているだけなら、このスタートラインにも立てず不戦敗に終わるかもしれません。「同じ場所で、同じ時間に、同じこと」をみんなで頑張るという経験を通して、成長してほしいと思います。特に何かをする必要はありませんが、リーダーたちが本心で「覚悟」し、1，2年生に「してみせる」練習ができるかどうかにかかっていると思います。

今年の体育大会、リーダーたちは、どのような涙を流すのでしょうか。どのリーダーの涙も自己満足の涙ではないことを願います。最初は自分たちが「してあげる」気持ちが強いものであると思いますが、どんなに暑くても、きつくても、どんなにひざやのどが痛くても、大きな声を出して、何回も練習してくれる仲間や下級生の姿に、いつの間にか「自分たちが支えられていたんだ」ということに気付く、感謝の涙であってほしいと思います。まだまだスタートラインです。未来はあなたの心の中にあります。大切なことを大切に、丁寧に取り組んでいけば、その先に広がる世界は素晴らしいものとなるでしょう。

あなたのまわりにいる人が
あなたのことをすべて教えてください
相手が笑顔になれば
自分が笑顔で接していることがわかります
相手が怒っていれば
自分の言動に問題があったことがわかります
まわりの人が喜べば
まわりに喜びを与えたことがわかります
相手にやる気が無ければ
自分が仕事を楽しんでいないことがわかります
感謝の手紙がくれば
他人に貢献する行動をしたことがわかります
まわりの人すべて
あなたがどんな気持ちでどんな行動をしたのかを
いつも「正直」に教えてください